


「学校のマネジメント力を強化するための実践研究」まとめ【概略版】

教育委員会名	名寄市教育委員会
研究課題	B 学校裁量権の拡大、組織的な学校運営の強化に関する実践研究
研究のねらい	<p><b>(1) 現状と課題</b>          名寄市内では、全小中学校（小学校10校、中学校4校）の管理職等による「教育改善プロジェクト委員会」を組織し、各学校の教育活動や児童生徒の状況等について情報交流を行い、学校改善を進めているところであるが、依然として、各学校における児童生徒の学力や生活リズムの現状分析が必ずしも十分でない、明確な目標設定がなされていない、学校としての組織的な取組には至っていないなどの課題が見られる。また、市内の小中学校においては、初任者等の若手教員が多く、2～3校を経験した教務主任等の役割を担う世代の教職員が不足している状況にあり、小規模校も複数あることから、個々の学校の取組に依存しては、ミドルリーダーを育成することが難しい。</p> <p><b>(2) 取組とねらい</b>          このため、組織的な学校運営の強化により、こうした課題を解消する観点から、各学校において、徹底的な現状分析（C）、現状分析に基づく明確な数値目標設定（G）、目標を実現するための具体的な計画の策定（P）、全教職員が一体となった計画の断行（A）のCGPAサイクルを確立することとし、校長、教頭、教務主任の3役のリーダーシップ及び事務職員の学校経営支援による包括的な学校改善に取り組む実践研究を行う。なお、実践研究に当たっては、市内全校を実践研究に参加させ、統一した基礎学力保障の取組（学習規律や生活規律の確立を含む。）を行うとともに、全校又は複数校共同での研修を行うことにより、ミドルリーダーの育成を効果的に行うこととする。</p>
研究の概要	<p><b>(1) 研究指定校（名寄市内全小学校10校、全中学校4校）の取組</b>          管理職のリーダーシップの下、CGPAサイクルに下記のような内容を位置づけ、学校が一体となった組織的な取組を進めた。</p> <p><b>【Check】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○自校の学力や生活リズムに関する管理職等による徹底的な現状分析と全教職員や保護者による課題認識の共有</li> <li>○目指す子どもの姿や学校像などの具体化</li> </ul> <p><b>【Goal Setting】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○現状分析を踏まえた明確な数値目標の設定及び全教職員と保護者による目標の共有</li> </ul> <p><b>【Planning】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○目標を実現するための具体的な取組           <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導要領の趣旨・内容に沿った基礎学力を保障するシステムの構築</li> <li>・安定した授業の基盤条件の学校全体での整備</li> <li>・日常の授業改善に直結する校内研究</li> </ul> </li> </ul> <p><b>【Action】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○全教職員によるCGPのプロセスの課題や目標、計画の共有と確実な実行</li> <li>○各学期末及び年度末でのデータに基づく取組状況の点検・評価及び設定した目標の定着状況の把握</li> </ul> <p><b>【Check】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○目標の実現状況を踏まえた上での必要な数値目標の修正（以下、G→P→Aの継続）</li> </ul> <p><b>(2) 名寄市教育委員会の取組</b>          上記の組織的な取組が市内の全ての小中学校で統一して展開されるよう、「教育改善プロジェクト委員会」を設置し、次のような取組を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○道教委で実施している「学校力向上に関する総合実践事業」の実践指定校の取組を積極的に紹介した。</li> <li>○道内外の優れた取組をリストアップし、学校への情報提供を行った。</li> </ul>

	<p>○道外の学校経営にかかわる有識者を招聘した研修会を実施した。</p> <p>○全校共同での研修会を実施した。</p> <p>○各学校における短期・中期・長期の具体的な数値目標を踏まえた取組に対する点検・評価及び指導助言を行った。</p> <p><b>(3) 成果の普及等</b></p> <p>○道教委が行った「第2回学校力向上に関する総合実践事業推進協議会」において、実践指定校である名寄小学校が、学習規律の確立や学習環境の整備に関する取組を発表し、成果を全道に普及した。</p> <p>○名寄市教育委員会のHPで、名寄市教育改善プロジェクト委員会と学校力向上に関する総合実践事業の取組を発信した。</p>
<p>研究の 成 果</p>	<p>今年度の名寄市教育改善プロジェクト委員会の取組に「学校のマネジメント力を強化するための実践研究」のねらいや取組等を反映させることにより、市内の全小中学校において、CGPAサイクルに基づく組織的な学力向上の取組や教員の資質向上の取組を推進し、次の成果を得ることができた。</p> <p><b>&lt;具体的な成果&gt;</b></p> <p>① 市内の全小中学校が、平成25年度全国学力・学習状況調査の自校採点及び分析に取り組むことにより、早期に学力向上・目標達成に向けたロードマップや学校改善プラン等の作成・見直しを行い、自校の児童生徒の学力の課題・目標を共有し計画的・組織的に学力向上に取り組む体制を整えることができた。</p> <p>② 名寄市教育改善プロジェクト委員会において、市内の全小中学校の基礎学力保障の取組や授業の基盤条件の整備等に関する状況を把握し参考資料の作成・発信に取り組むことにより、各学校の家庭学習の取組や学習規律の確立等の改善充実を促すことができた。</p> <p>③ 名寄市教育改善プロジェクト委員会を中心として、初任者研修や校内研究の交流促進、市内の全小中学校を参加対象とする研修会等の実施に取り組むことにより、教員のライフ・ステージに即した指導力や学校運営に参画する意欲等の向上を促すことができた。</p> <p>④ 市内の各学校が、名寄市教育研究大会や自主的な実践発表会、指導主事の学校訪問等において授業研究を広く公開することにより、日常の授業改善に直結する校内研究や基礎基本の確実な定着を図る授業の在り方等について研究交流を深め、各学校の校内研究の充実や授業改善に役立てることができた。</p> <p>⑤ 市内の小中学校長と市教育委員会が、他市の学校力向上に関する総合実践事業実践指定校を視察することにより、視察校校長の学校改善へのビジョン及び学力向上や教員の資質向上等に関する具体的な取組について研修を深め、今後の校内研修や本市の体系的な教員研修の構築等の参考にすることができた。</p> <div data-bbox="997 734 1369 1198" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>平成25年度 学校のマネジメント力を強化するための実践研究</p> <p><b>名寄市教育改善プロジェクト委員会の取組</b></p> <p>＜推進のテーマ＞      児童生徒に「生きる力」を育み、      夢と希望を拓く名寄市教育の創造      ～学校力を高める取組を通して～</p> <p>＜実践のキーワード＞ <b>学力向上 Step by Step</b></p>  <p>名寄市立天文台「きたすばる」</p> <p>名寄市教育委員会・名寄市教育研究所</p> </div> <p>■第1章 取組の概要と組織      ○事務局だより ○組織</p> <p>■第2章 学習指導の工夫改善に関する取組      ○学力の分析及び学校改善プラン等の例 ○チャレンジテストの結果と分析 ○家庭学習の充実 ○名寄市学習規律</p> <p>■第3章 校内研修（研究）の充実に関する取組      ○校内研究を推進するためのQ&amp;A ○名寄市小中学校の研究の概要 ○実践発表会の概要 ○学校力向上に関する総合実践事業アドバイザーによる研修会 ○学校のマネジメント力を強化するための実践研究事業教育講演会 ○初任者研修「一般研修」第2期・第3期 ○小中接続の事例</p> <p>■第4章 教育資源等の活用に関する取組      ○教育活動の充実 ○人材活用の実践例 ○ICTの活用 ○授業に活用できる名寄市内施設一覧表及び実践例</p> <p>■第5章 学校力向上に関する取組      ○第1回学校力向上に関する総合実践事業推進協議会 ○学校力向上に関する総合実践事業実践指定校視察研修 ○第2回学校力向上に関する総合実践事業推進協議会</p>
<p>本 件 問 い 合 わ せ 先</p>	<p>名寄市教育委員会学校教育課（指導主事）          TEL: 01654-3-2111 FAX: 01654-2-0598 E-mail: honma-yuichi@city.nayoro.lg.jp  <a href="http://www.city.nayoro.lg.jp/www/genre/000000000000/1379472666124/index.html">http://www.city.nayoro.lg.jp/www/genre/000000000000/1379472666124/index.html</a></p>

「学校のマネジメント力を強化するための実践研究」まとめ【概略版】

教育委員会名	前橋市教育委員会
研究課題	学校裁量権の拡大、組織的な学校運営の強化に関する実践研究
研究のねらい	<p>学校徴収金取扱事務の全校統一化により適正・効率化を図るとともに、学校配当予算の原案編成権を学校へ委譲するなどして公費と私費の一体的な予算管理体制のあり方を研究することにより、各校の実態に即した効果的な「活かした予算」の実現を目指し、教育の質の向上及び地域の実情に応じた自律的な学校運営を推進する。</p>
研究の概要	<p><b>1 学校財務事務における様々な課題の解決に向けた取り組み</b></p> <p>市教委と学校関係職員で構成するWG「学校財務事務改善ミーティング」を結成  <b>2つの専門部会を設置して細部にわたる研究を実践</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校徴収金部会（ ） 計4回開催</li> <li>・学校配当予算部会 計7回開催</li> </ul> <p>のちに「学校預り金部会」に名称変更</p> <p>先進地視察</p> <p>検討・協議</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公費と私費の一体的な予算管理体制（京都市） 保護者負担経費会計システム（ ）と校内予算管理システムとの連携 開発業者への概要聴取、デモンストレーション開催</li> <li>・学校預り金事務運営協議会による効果的かつ効率的な集金方式（上越市） 教育支援システムと金融機関との連携</li> </ul> <p>実行</p> <p>管理職の意識啓発 学校財務マネジメントに関する講演会の開催          校内組織体制 「校内予算委員会ガイドライン」の作成</p> <p><b>2 統一された適正かつ効率的な学校徴収金事務 / 学校徴収金部会</b></p> <p>教職員単独による事務処理体制</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の事務負担</li> <li>・費目毎に異なる事務処理</li> </ul> <p>事務職員中心の組織的な事務処理体制</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちと向き合う時間の確保</li> <li>・経理事務の更なる適正化・効率化</li> </ul> <p>その1 システム導入と事務の見直し</p> <p>学校給食システム（既存）の活用策          NBサービス（ ）による口座振替集金          金融機関との効率的な連携策          各会計口座の一元化          ネットバンキングサービス</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・給食システムの安定稼働</li> <li>・学校現場の意向</li> <li>・導入コストなどを勘案して検討</li> </ul> <p>その2 事務の統一化と教職員の役割の明確化</p> <p>チェックポイント集（既存）の有効活用          保護者負担経費会計システムの活用          事務職員と教職員における事務の分担</p> <p>研究指定校1校による実践（中学校）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校事務職員を中心とした事務処理を実践するとともに、役割の明確化と適正かつ効率的な事務執行を目的とした「学校預り金事務取扱要領」を作成。</li> <li>・学校預り金事務取扱要領にチェックポイント集（既存）を関連付けるなど、内部牽制を目的とした組織体制を強化。</li> </ul>

### 3 学校長の権限拡大と適正かつ効率的な予算管理 / 学校配当予算部会

研究の概要

#### 機械的に配当された学校予算

- ・学校の意向を反映し難い
- ・実態に即した予算運営に支障

#### 学校裁量により編成できる学校予算

- ・自律的な学校経営
- ・保護者負担（私費）の軽減 など

#### 各校の実情を踏まえた効果的な学校配当予算

- 予算原案編成権の委譲（市教委執行予算を含む）
- 費目間調整事務の効率化（システム改修予定）
- 校長専決範囲の拡大（図書購入費（学校図書館））
- 配当費目の追加（飼料費、通信運搬費（切手）など）
- 各種物品購入事務の見直し

研究指定校5校  
（小学校3校、中学校2校）  
による実践

#### 対策

過去の決算額だけでなく使用量など新たな要素の分析 予算枠の最適化  
「学校予算ハンドブック」の作成 適正かつ効率的な予算執行

#### 既存課題と新たな課題

- 予算枠の設定方法
- 予算執行方法の再整理

研究の成果

### 1 広く多くの関係職員に対して学校財務マネジメントに関する意識啓発

先進地の取り組みや実務を学校関係者とともに視察  
学校関係者を対象とした有識者による講演会の開催

#### 校内予算委員会ガイドライン

- 開催趣旨
- 構成と役割分担（目安）
- 開催時期
- 協議内容
- 学校配当予算原案編成の流れ（目安）
- 留意事項
- その他

#### 学校預り金事務取扱要領

はじめに（本取扱要領作成の背景について）

- |              |                       |                  |
|--------------|-----------------------|------------------|
| 第1章 基本編      | 学校預り金について             | 公費・私費負担基準        |
| 第2章 事務処理編    | 予算計画<br>確認            | 保護者への説明<br>転入・転出 |
| 第3章 システム操作編  | } 平成26年度本格稼働を踏まえ作成予定。 | 集金<br>会計報告       |
| 第4章 口座振替手続き編 |                       | 執行支払<br>年度替      |
| 第5章 資料編      |                       |                  |



### 2 創意工夫による予算の有効活用に向けた取り組みに着手

研究指定校とともに様々な学校財務事務改善策を策定  
大型備品老朽化対策費の捻出など学校設備環境の充実

#### 学校予算ハンドブック

- |       |              |                  |
|-------|--------------|------------------|
| 事務処理編 |              |                  |
| 予算編成  | 1 基本事項について   | 2 学校予算について       |
|       | 3 予算原案編成について |                  |
| 予算管理  | 1 管理方法について   | 2 予算の配分変更について    |
| 予算執行  | 1 基本事項について   | 2 市費学校予算の種類別処理方法 |
| 資料編   |              |                  |
| 様式編   |              |                  |



本件  
問い合わせ先

前橋市教育委員会指導部学校教育課 管理保健係  
TEL:027-898-5812 FAX:027-221-3418 E-mail: gakkoukyouiku@city.maebashi.gunma.jp  
資料等の掲載: <http://www.city.maebashi.gunma.jp/kurashi/230/257/001/p012674.html>

「学校のマネジメント力を強化するための実践研究」まとめ【概略版】

教育委員会名	新潟県教育委員会
研究課題	B 学校裁量権の拡大、組織的な学校運営の強化に関する研究
研究のねらい	<p>平成 22 年度から県教育委員会主導で「多忙化解消アクションプラン」を開始した。平成 24 年度より、地域の実態に応じた取組となるよう市町村教育委員会に実施主体を移行して継続実施している。</p> <p>平成 25 年度は、これまでの取組から明らかになった課題を踏まえ、「管理職等のマネジメント機能の強化による効率的な学校運営」のための事業実施に併せ、県教育委員会と市町村教育委員会の役割分担を明確にした上で、より効率的な業務負担軽減のための取組について研究する。</p>
研究の概要	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%; border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">＜学校の役割＞</p> <p>★ 1 プログラム運動の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「10 の点検」による現状把握と評価</li> <li>・ 1 プログラム運動の実施</li> <li>・ 市町村教育委員会との連携</li> </ul> <p>P D C A サイクルによる改善</p> </div> <div style="width: 10%; text-align: center;"> </div> <div style="width: 45%; border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">＜市町村教育委員会の役割＞</p> <p>★ 学校の取組の指導・支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校の取組の集約</li> <li>・ 物的・人的側面からの支援</li> <li>・ 研修等による指導・支援</li> <li>・ 県教育委員会との連携</li> </ul> <p><u>学校への指導・支援、省力化等の推進</u></p> </div> </div> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block;">県立学校</div> <div style="font-size: 2em; margin: 0 10px;">↑↓</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block;">子どもたちと向き合う時間の確保</div> <div style="font-size: 2em; margin: 0 10px;">↑↓</div> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">＜県教育委員会の役割＞</p> <p>★ 市町村教育委員会及び学校の取組の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li style="width: 50%;">・ マネジメント研修会の実施</li> <li style="width: 50%;">・ 庁内検討委員会の設置</li> <li style="width: 50%;">・ 多忙化解消意見交換会の開催</li> <li style="width: 50%;">・ 市町村教育委員会への取組支援</li> </ul> <p><u>研修の設定</u>    <u>取組の集約と情報提供</u>    <u>省力化・簡略化等の検討</u></p> </div> </div> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 管理職を対象としたマネジメント研修会の実施             <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 校長を対象として教員評価に係る評価者研修会を実施</li> <li>○ 教頭を対象として多忙化解消に特化したマネジメント研修会を実施</li> </ul> </li> <li>2 多忙化解消意見交換会の開催             <p style="padding-left: 20px;">市町村教育委員会や校長会、事務職員部会等の代表者による意見交換会を年 2 回開催し、多忙化の要因や改善に向けた取組について話し合う。</p> </li> <li>3 多忙化解消「1 プログラム運動」の取組状況の集約と情報提供             <p style="padding-left: 20px;">6 ヶ月を 1 サイクルとし、P D C A サイクルによる改善を図っている。取組状況を市町村教育委員会が集約し、さらに県教育委員会へ報告している。県教育委員会は、全県的な傾向や参考となる取組等を情報提供している。</p> </li> <li>4 教職員勤務実態調査の実施             <p style="padding-left: 20px;">県内 18 校を対象として 1 週間の勤務実態を調査し、経年変化を分析する。</p> </li> </ol>

研究の成果	<p>1 管理職のマネジメント力の向上</p> <p>教員評価者研修会では、講義を通して目標管理と学校改善、職能発達を促す評価の手立てなどについて研修を深めた。また、グループ協議では、意欲ややりがいをもつ評価・面談のあり方について意見交換した。</p> <p>多忙化解消に特化したマネジメント研修会では、「個人の職能能力向上から組織能力向上へのシフト」「明確で達成可能な目標設定(選択と集中)」「プラスを伸ばす改革志向」など、学校組織マネジメントのポイントについて研修を深めた。</p> <p>目標系列における多忙化解消の取組の位置付け、合理的な組織編成や組織運営による業務負担の軽減、教員評価を生かしたコーチング、やりがい向上による多忙感の払拭などを学び、マネジメント力を高める研修会となった。</p> <p>2 多忙化解消に向けての取組の推進</p> <p>6ヶ月を1サイクルとして、各学校が多忙化解消に向けた「1プログラム運動」を計画、実施、評価、改善している。市町村教育委員会から報告された取組状況を集約し、学校及び市町村教育委員会の成果と課題、全県的な傾向などを整理して情報提供してきた。</p> <p>県内18校(小学校8校、中学校8校、特別支援学校2校)を対象として実施した勤務実態調査の結果、昨年度よりも残業時間が減少しており、多忙化解消に向けた取組の成果が見られる。</p> <p>3 数値目標設定による評価・改善</p> <p>取組状況報告から業務の精選や効率化が進み、物理的な忙しさの解消は進んでいることが伺える。一方、気ぜわしさや精神的な圧迫感など、多忙感が課題として残されている。</p> <p>平成26年度から本格スタートする「第2次多忙化解消アクションプラン」では、多忙化解消と多忙感払拭の両面から取り組む。取組の視点を業務の負担軽減とやりがい向上の2つとし、より実効性を高めるためにそれぞれに数値目標を設定する。達成目標を明確にすることで、着実な改善につなげていく。</p> <p>4 関係者による課題の共有と連携体制の強化</p> <p>年2回開催している多忙化解消意見交換会も定着してきた。各種団体の代表者によって多忙化の要因や多忙化解消の取組について意見交換することで、課題を共有し、解決に向けた連携体制づくりに生かされている。</p> <p>マネジメント研修会等では市町村教育委員会の情報交換の場を設定した。IT化の推進や外部人材の活用など物的・人的側面からの支援、勤務管理や学校訪問などによる支援について情報交換を深める機会となった。</p>
本件 問い合わせ先	新潟県教育委員会 義務教育課 管理企画係 TEL : 025-285-5511 (代) FAX : 025-285-8087

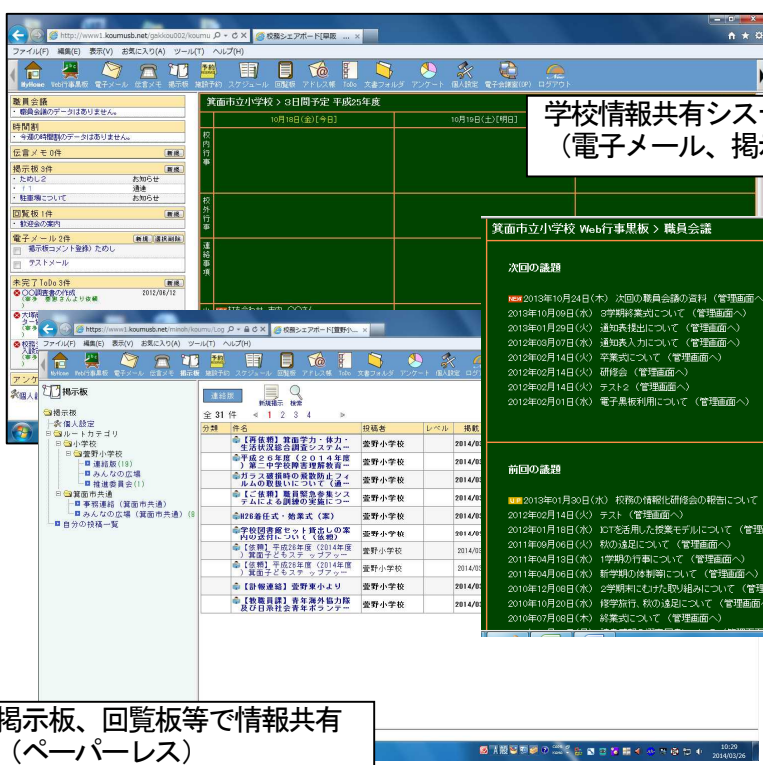
「学校のマネジメント力を強化するための実践研究」まとめ【概略版】

教育委員会名	松江市教育委員会
研究課題	C 校務の情報化による教育の質の向上、学校運営の改善に資する実践研究
研究のねらい	<p>本実践研究をとおして、ICTを活用した校務の情報化による教育の質の向上、保護者、地域と連携した学校評価システムの構築による学校運営の改善を図る。</p> <p>松江市は、小中一貫教育の推進を重点施策として、幼児期から義務教育9年間を見通した「たて一貫教育」と、学校・家庭・地域が協働し地域で子どもを育てる「よこの一貫（環）教育」を二本の軸として小中一貫教育に取り組んでいる。平成24年10月に学校間ネットワークを整備し、学校間、学校・行政間の情報を共有すると共に、保護者、地域との連携につながるネットワークシステムの活用やICT活用を検討しているところである。</p> <p>そこで、更にスムーズな連絡調整並びに連携協働により、学校ネットワークを活用した学校情報の管理の適正化に基づく、情報発信、収集、共有化を進めることで、教育の質の向上、学校運営の改善を図り、小中一貫教育及び地域とともにある学校づくりの推進を目的として調査研究を行っていく。</p>
研究の概要	<p>松江市立第四中学校を指定校として、同中学校区の津田小学校・古志原小学校と本中学校からなる小中一貫教育校「津田古志原夢きぼう学園」と、学園の事務グループ活動、学校支援地域本部との連携協働により本研究を実施した。</p> <div data-bbox="399 873 1197 1523"> <p>【研究課題】 校務の情報化による教育の質の向上、学校運営の改善 ～ICTの活用による、小中一貫教育「自らを知り、高め伸ばそうとする子ども」の育成～</p> </div> <p>A 学園、保護者、地域との連携、協働</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 情報管理の適正化             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 学校ネットワークのグループウェアの活用 閲覧機能、メール、書庫、スケジュール機能、アンケート機能</li> <li>(2) 共有フォルダの活用 市内共有フォルダ、照会・回答フォルダ、学校共有フォルダ</li> </ol> </li> <li>2 情報発信、収集の強化             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 情報発信：学校ホームページ・携帯すくーるメール等の活用</li> <li>(2) ICT活用能力の向上及び啓発 ICT活用研修（2回開催）、校務支援システム研修会（2回開催）</li> </ol> </li> </ol>

	<p>先進地視察：岡山県の実施校の ICT 活用教育の現状や課題等を視察          県外研修会：京都市で開催された「校務の情報化」研修会に参加          (3) マニュアルの作成：SQS・リアルタイム評価支援システム等          (4) 学校事務職員の活動：情報発信、ICT 活用の推進とつなぐ役割</p> <p>3 学校・保護者・地域・行政機関が連携・協働するための情報共有及び ICT の活用          ワークショップ等の研修会を実施し、終了後に ICT を活用して評価を行った。その評価結果を回覧機能で配信し、情報の共有を図った。</p> <p>B ICT を活用した学校評価による検証          学校ネットワークを活用し、対象者毎に、より効果的なアンケート機能の活用を試み、評価集計を行った。また、誰でも簡単に使用できるようにマニュアルを作成した。</p>
<p>研究の成果</p>	<p>1, 校務の情報化を活用した学校評価システム          (1) ICT を活用した学校評価システムは、リアルタイムの評価や集計・分析、評価結果の情報共有ができ、教育活動の改善の手立てとなった。また、集計の効率が図られ、教員が教育活動に専念できる時間ができた。          (2) 学校ホームページや携帯するメール等による日常の情報発信は、学校の説明責任を果し保護者地域との信頼関係の構築につながった。          (3) 学校ネットワークの校務グループウェアの活用や各種共有フォルダの活用により、情報共有や安全な情報管理やその効率化が図られた。</p> <p>2, 学校・保護者・地域・行政が連携・協働するための情報共有及び ICT の活用実践          (1) 地域を対象にしたワークショップや地域ボランティアのつどい等の研修会を実施し、ICT を活用した評価システムの有効活用を図ったことは、学校・保護者・地域・行政が連携協働する上で有効であった。          (2) 分離型小中一貫教育校の学園運営の推進に向けて、校区フォルダや校務グループウェアなど学校ネットワークシステムを活用したことで、スムーズな連絡調整並びに連携協働を進めることができた。校務グループウェアのアンケート機能の活用は、評価、振返りが簡単にできることで、学園及び学校運営の改善につながった。</p> <p>3, 連携協働するための事務職員の役割          (1) 事務職員が ICT の活用を積極的に取り入れ、教職員に働きかけることで、学校情報の発信の方法が、ICT の活用による即時性や簡易性を意識したものに変わってきた。学校ホームページや評価システムの中心となることで、学校の情報が保護者や地域に確実に届くようになった。          (2) 事務グループ活動を通して市内の教職員にも呼びかけて ICT の研修会等を企画したり、マニュアルの作成をしたりしたことで、市内の学校への ICT 活用の啓発、促進につながった。学校間、学校と地域・保護者、学校と教育委員会をつなぐ役割において、事務職員の果たす役割は大きく、今後果たす役割とその成果が期待できる。</p>
<p>本件          問い合わせ先</p>	<p>※松江市教育委員会、学校教育課          TEL:0852-55-5341 FAX:0852-55-5251 E-mail:school-edu@city.matsue.lg.jp</p>



「学校のマネジメント力を強化するための実践研究」まとめ【概略版】

<p>教育委員会名</p>	<p>箕面市教育委員会</p>
<p>研究課題</p>	<p>C 校務の情報化による教育の質の向上、学校運営の改善に資する実践研究</p>
<p>研究のねらい</p>	<p>①校務の電子化による効率化 校務の電子化に向けて、方法の検討、システムの周知、様式の統一化を行い、教職員の校務を効率化することによって、教職員を支援し、教育の質の向上をめざす。 ②学校事務の効率化 学校によって異なる、基本的職務（業務）と手順を共通化することにより、教職員の校務の効率化を図り、子どもと向き合う時間を確保することをめざす。</p>
<p>研究の概要</p>	<p>◇教育委員会事務局職員、学校教職員で構成する「学校運営改善実践研究委員会」を立ち上げ、本事業の方向性の共有などについて会議を開催した。 ◇学校運営改善実践研究委員会の実務ワーキングとして学校事務職員によるワーキングを立ち上げ、学校事務の整理、学校徴収金の実態及び事例研究、他市での学校事務職員の学校経営への参画の研究などを行うとともに、会議を開催した。 ◇学校情報共有システムの先進地を視察し、必要な機能や導入時の注意事項などについて研究した。 ◇モデル校を選定し、学校情報共有システムを試行導入し、必要な機能の研究や具体的な使い方の積み上げを行った。 ◇箕面学力・体力・生活状況総合調査システムの導入（別事業）に向けて、必要な機能の研究や具体的な使い方の積み上げを行った。</p>
<p>研究の成果</p>	<p>◇学校情報共有システムを試行実施しているモデル校では、時宜にかなった情報共有、職員会議等のペーパーレス化、資料配布手間や学校日誌記載の省略化、他校教職員との密な連絡調整などを体験することができた。</p>  <p>学校情報共有システムのトップページ (電子メール、掲示板等で情報共有)</p> <p>職員会議の電子化 (ペーパーレス化)</p> <p>掲示板、回覧板等で情報共有 (ペーパーレス)</p>

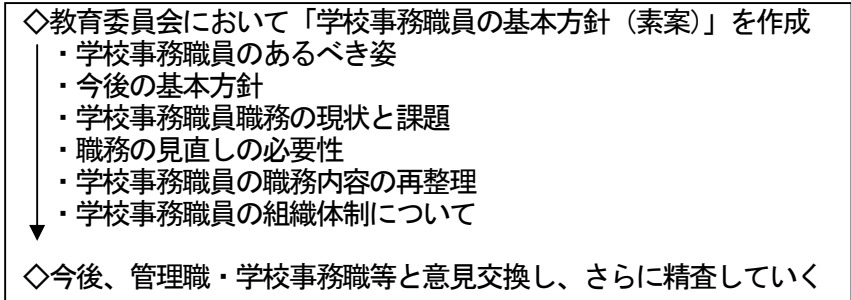
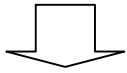
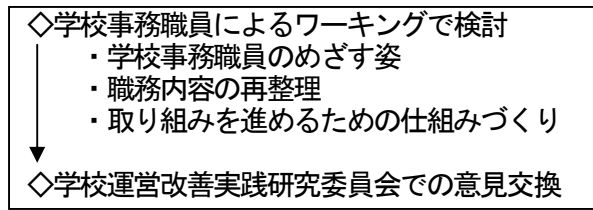
◇『学校用グループウェア（情報共有システム）』を活用し、システムに入力した内容が自動的に学校日誌に反映・データとして保存できるようにすることで、事務の省力化と予算の削減を図り、子どもと向き合う時間を確保した。

年	月	日	曜日
平成28	3	20	木

記事	
校内行事	校外行事
<ul style="list-style-type: none"> <li>・（朝勤）給食終了 大掃除</li> <li>・職員会議・校内人権(予備)16:00～小中6年連絡会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 献立作成委員会</li> </ul>
連絡事項	

◇学校事務職員によるワーキングでは、学校事務職員の学校経営への参画にかかる現状と課題を共有するとともに、学校事務職員の標準的な職務内容を見直し、整理した。これらの検討を踏まえ、教育委員会において「学校事務職員の基本方針（素案）」を作成し、今後、精査していく。



◇モデル校での試行状況を市内他校と情報共有し、議論する場を設けるなど、全校実施に向けた取り組みを進めた。

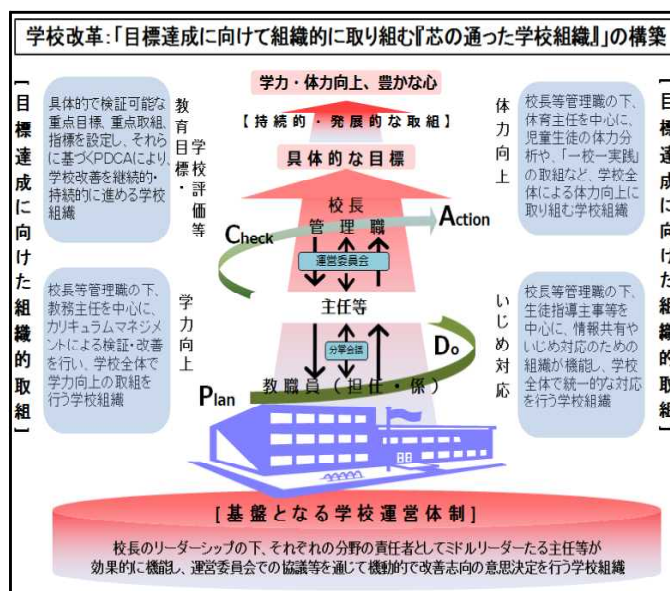
本件 問い合わせ先	箕面市教育委員会 箕面市教育センター TEL : 072-727-5112 FAX : 072-727-4089 e-mail : educenter@maple.city.minoh.lg.jp
--------------	--

「学校のマネジメント力を強化するための実践研究」まとめ【概略版】

教育委員会名	大分県教育委員会
研究課題	A 学校評価の充実・強化に関する研究 (学校裁量権の拡大、組織的な学校運営の強化に関する実践研究)
研究のねらい	<p>◆大分県では、学力・体力等の向上やいじめなどの今日的な課題に対応するため、目標達成に向けて組織的に取り組むことにより、学校が組織力を活用して持続的・発展的な取組を行えるよう、「学校改革」を進めている。</p> <p>◆学校の組織力を向上させる上で、第一に重要なのは、各学校が重点化された目標や目標達成等を検証できる達成指標のもと、学校全体で検証・改善を繰り返すことと考えている。</p> <p>◆県の指導主事の各学校への指導・支援や学校・家庭・地域総ぐるみのより良い学校づくりの推進により、このような目標達成に向けた組織的な取組を行う学校づくりを目指す。</p>

「目標達成に向けた組織的な取組」を行う学校組織

→「芯の通った学校組織」と呼び、3年計画（H24～26）で推進



1 組織力向上に向けた学校に対する指導・支援の充実

①県教委の継続的な学校訪問による指導・支援

教育事務所（学校改革担当指導主事等）



継続的な指導・支援

各学校への年3回以上の学校訪問

\*改善につながる効果的な学校評価の取組やそのための学校運営体制について

②県教委の学校改革担当指導主事等の指導力向上のための研修

■先進地訪問研修及び有識者の招へい研修の実施

- ・ 広島県訪問研修（平成25年9月11日～12日）
- ・ 有識者招へい研修（平成25年11月8日）  
株式会社PHP研究所 亀田 徹センター長
- ・ 秋田県訪問研修（平成25年11月14日～16日）
- ・ 広島県教育委員会職員招へい（平成26年2月7日）  
東部教育事務所 沼本 慎二所長、管理部教職員課 奥田 米穂課長補佐

研究の概要

## 2 学校・家庭・地域の連携協力

- ①「大分っ子学力・体力向上県民フォーラム」の開催
  - 県内を4地区（H25は3地区で実施）分けて開催
  - 北部地区 6月 1日（土） ○南部地区 7月 6日（土）
  - 西部地区 10月 19日（土）
- ②小・中学校長の地域別意見交換会の開催
  - 県内5カ所（地域）で実施
  - 別府市・日出町地区（8月7日） ○由布市・九重町（8月23日）
  - 佐伯市（11月25日）○宇佐市・杵築市地区（1月28日）○大分市（2月12日）

## 1 組織力向上に向けた学校に対する指導・支援の充実

- 県教委の継続的な学校訪問による指導・支援等を通して、学校評価の取組やそのための学校運営体制の構築についての成果は、以下のとおりである。

### 学校の教育目標の具体化

- ・ほとんどの学校で、目標の重点化や具体化が進んだ。
- ・7割以上の学校で、検証可能な達成指標が設定されている。
- ・短いスパンで改善を繰り返す重要性が共有されつつある。
- ・目標を学校全体で共有して改善を進めるツールとして4点セット（重点目標・達成指標・重点的取組・取組指標）が機能しつつある。

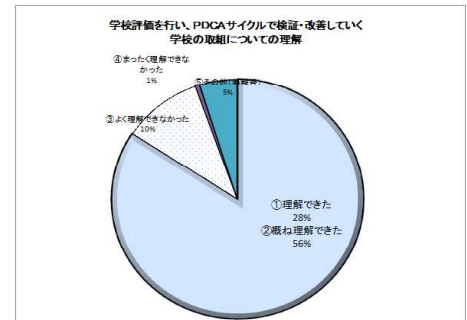
### 基盤となる学校運営体制

- ・教務主任をはじめ主要主任等が、学校マネジメントの必要性について理解して学校運営に参画する意識が、高まりつつある。
- ・運営委員会が全ての学校に設置され、多くの学校で週一回開催されている。
- ・職員会議の回数、時間が減り、議事も運営委員会で内容が縛られた上で提案されており、意思決定が効率化された。
- ・教頭が、校長の補佐や授業観察に傾注できるようになりつつある。

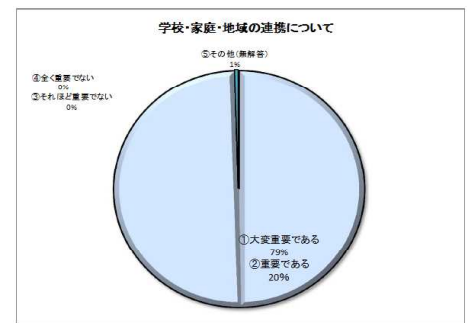
## 2 学校・家庭・地域の連携協力

- 「大分っ子学力・体力向上県民フォーラム」に参加した保護者（約9割の小中学校の保護者が参加）に対するアンケート結果は、以下のとおりである。

- ◇「学校評価を行い、PDCAサイクルで検証・改善していく学校の取組についての理解」で「理解できた」「概ね理解できた」と回答した保護者の割合 84%



- ◇「学校・家庭・地域の連携について」で「大変重要である」「重要である」と回答した保護者の割合 99%



研究の成果

本件  
問い合わせ先

大分県教育庁教育改革・企画課 改革企画班  
TEL 097-506-5430 FAX 097-506-1791  
E-mail:

「学校のマネジメント力を強化するための実践研究」まとめ【概略版】

教育委員会名	沖縄市教育委員会
研究課題	A 学校評価の充実・強化に関する実践研究
研究のねらい	<p>本市の子どもや学校が抱える課題の解決を図るため、保護者や地域住民の力を学校運営に生かす「地域とともにある学校づくり」の推進により、子どもが抱える課題を地域ぐるみで解決する仕組みづくりを目指す。そのため、コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の導入を目指した学校評価の体制づくりを行い、学校の課題解決に向けた学校のマネジメントサイクルの強化を図る。</p> <p>市教育委員会主要事業について第三者評価を行ない、学校支援の取組状況に対し良さや課題など、その改善方策を探る。</p>
研究の概要	<p><b>1 市教育委員会の取組</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 学校支援の充実に向けた教育委員会の取組における外部評価として第三者委員会を設置</li> <li>(2) 「沖縄市立学校第三者評価システム実施要綱」の制定</li> <li>(3) 各学校における学校関係者評価の評価項目の一部統一</li> <li>(4) 校長会、教頭会での研修会の実施</li> <li>(5) 県外派遣研修（市内校長、担当主事）</li> <li>(6) コミュニティ・スクール推進のため、市内学校職員、地域関係者合同の講演会の実施</li> <li>(7) 二学期性検討委員会を設置（校務改善等）</li> </ol> <p><b>2 指定研究校（市内全小中学校[小学校 16 校、中学校 8 校]）</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 学校評議委員制度から学校運営協議委員会への移行</li> <li>(2) 自己評価（児童・生徒アンケート、保護者アンケート）の充実</li> <li>(3) 学校関係者評価の実施</li> <li>(4) 学校関係者評価結果を受けての改善策の策定</li> <li>(5) 校務改善推進プランの策定</li> </ol>
研究の成果	<p><b>1 各学校における学校評価の取組の充実</b></p> <p>自己評価、学校関係者評価、第三者評価を受けての改善策、校務改善推進プランの策定により、学校の課題解決に向けた学校のマネジメントサイクルの強化が図れた。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 各学校では、具体的重点目標を立て、その達成状況を把握するための指標や児童・生徒アンケート及び保護者アンケートの実施を通して自己評価の充実に努めることができた。</li> <li>(2) 学校関係者評価では、評価を記載する様式とそれを受けての改善策について市内統一した様式により、その評価の結果を簡潔かつ明瞭にまとめることができた。</li> <li>(3) 各学校においては、学校関係者評価を受けての改善策及び校務改善推進プランの策定により、教職員の子どもと向き合う時間を確保するための校務改善を図りながら、学校の課題解決に取り組む体制が整った。</li> </ol> <p><b>2 コミュニティ・スクールの導入を目指した学校評価の体制づくり</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) コミュニティ・スクールの導入と学校関係者評価を関連させるため、評価項目に一部コミュニティ・スクールの推進に関わる項目を取り入れることにより、学校と保護者・地域への理解が深まった。</li> <li>(2) 学校の課題に対し、保護者・地域の力を学校に活かす体制づくりが整った。</li> </ol>



写真 1 第三者評価委員への学校支援事業説明

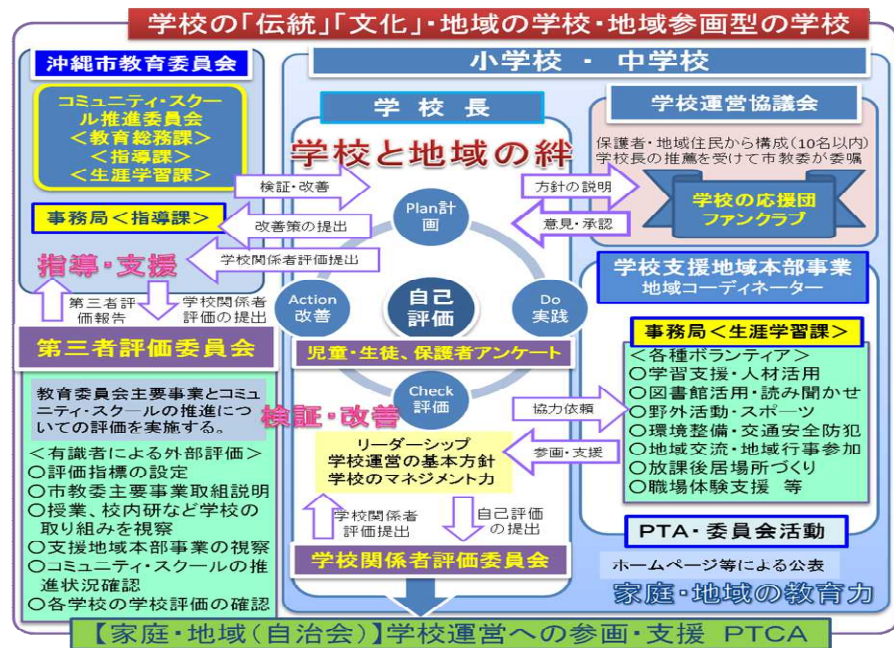


図1 沖縄市型コミュニティ・スクールと学校評価

### 3 市教育委員会における学校支援事業に対するマネジメントサイクルの確立

- (1) 沖縄市第三者評価委員会により、本市教育委員会の主要事業に対する外部評価を行い、その妥当性や有効性等について客観的に把握することができた。
- (2) コミュニティ・スクールの導入を目指し、市教育委員会の主要事業の成果や課題について、各学校の学校評価の内容や沖縄市第三者評価委員会の評価結果と照らし合わせることで、今後のコミュニティ・スクールの充実に寄与するための主要事業の方向性を掴むことができた。

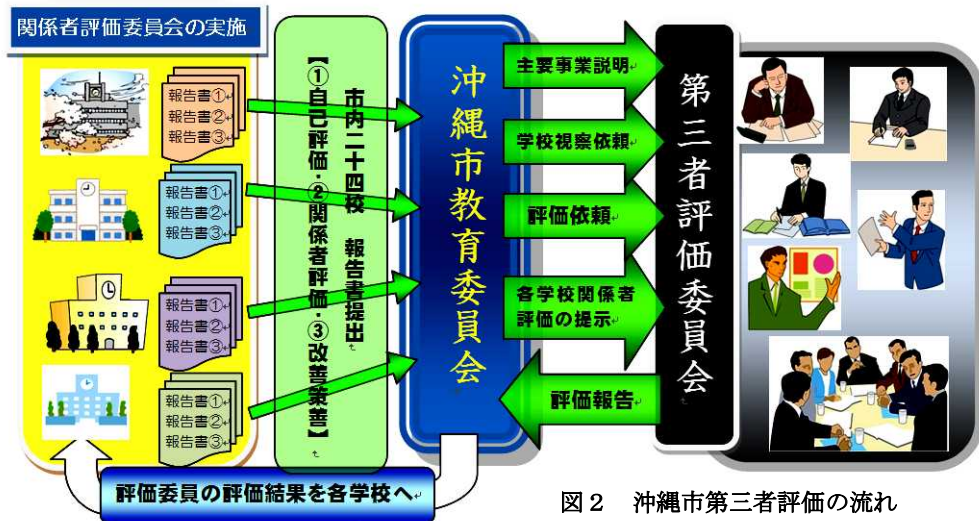


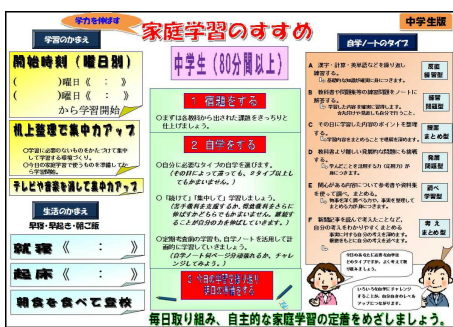
図2 沖縄市第三者評価の流れ

### 4 今後の取組予定

- (1) 第三者評価委員会において成果と課題をより把握しやすくするための評価指標、評価資料の在り方について検討する。
- (2) 今年度は、コミュニティ・スクールの導入期と捉え、第三者評価を実効性のある学校評価の充実並びに体制づくりに向け進めてきた。次年度は、コミュニティ・スクールの推進期として、学校運営協議会の充実運営及び学校再生を図るための学校評価の取組について第三者評価を進めていく。

本件 問い合わせ先	沖縄市教育委員会 指導課 〒904-8501 沖縄市仲宗根町 26 番 1 号 TEL : 098-939-7976 FAX : 098-937-3548 E-mail : shidou003@city.okinawa.okinawa.jp
--------------	---

「学校のマネジメント力を強化するための実践研究」まとめ【概略版】

教育委員会名	春日市教育委員会													
研究課題	A 学校評価の充実・強化に関する実践研究													
研究のねらい	<p>春日野中学校ブロック3校（春日野中学校、春日野小学校、春日原小学校）は、各学校がそれぞれ独自のコミュニティ・スクールの運営を行ってきたが、春日野中校区の学校間や自治会間等で組織上や活動上で連携の必要性が感じられ平成23年度から春日野中学校区関係者評価委員会を組織し、共育目標のもと3つの重点項目「家庭学習」「あいさつ」「地域行事」を中心に三校が連携しながら取組を推進してきた。</p> <p>平成25年度は、春日野中学校ブロックコミュニティ・スクール推進委員会を発足し、中学校区学校運営協議会の組織を編成し、小中が連携して行う教育活動と3校の共通した取組を評価改善していく学校評価システムの確立を目指すこととした。春日野中学校ブロックコミュニティ・スクールとしての学校関係者評価の在り方を究明し、それを公開することで、保護者・地域住民等に対して適切に説明責任を果たし、保護者・地域住民等から理解と参画を得て、学校・家庭・地域の連携協力による信頼される学校づくりを進めるために実践研究を実施する。</p>													
研究の概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 春日野中ブロックコミュニティ・スクール推進委員会立ち上げ、取組充実及び評価の実効性を高めるための定例的事務局会の開催</li> <li>② 中学校ブロック学校関係者評価の実施（評価指標の設定、3校共通した調査の実施、3校合同研修会の開催等）</li> <li>③ 重点施策の取組</li> </ol>	<p>ア 家庭学習の定着を推進する取組（家庭学習のすすめりフレッツ作成等）</p> <p>イ あいさつの励行を推進する取組（小中合同あいさつ運動）</p> <p>ウ 地域の活性化を図る取組（小中合同地域清掃活動、地域行事参加カード、地域行事カレンダー等）</p>												
	<ol style="list-style-type: none"> <li>④ 3校合同学校要覧の作成</li> <li>⑤ 実践研究評価事績</li> </ol>	 <table border="1" data-bbox="367 1556 1428 2054"> <thead> <tr> <th></th> <th>中学校ブロックの評価、取組等</th> <th>評価資料の収集等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4月</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>●春日野中ブロックCS推進委員会組織編成</li> <li>●春日野学校評価推進計画の策定</li> <li>※中学校ブロック評価項目の検討</li> </ul> </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>○全国学力実態調査実施(小:国語,算数 中:国語,数学)</li> <li>・小学校東京書籍標準学力検査結果分析</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>5月</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>●第1回春日野中ブロックCS事務局会</li> <li>●春日野中ブロックの重点項目実態調査</li> </ul> </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇生活実態アンケート分析</li> <li>●学校・家庭・地域の三者実態調査(教職員、児童生徒調査、地域実態調査、家庭実態調査)</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>6月</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>●第2回春日野中ブロックCS事務局会</li> <li>●第1回春日野中ブロックCS推進委員会</li> <li>○第1回小中合同あいさつ運動</li> </ul> </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>3つの重点項目の取組確認</li> <li>学校・家庭・地域の実態報告(教職員、児童生徒調査、地域実態調査、家庭実態調査)</li> <li>○福岡県学力実態調査</li> </ul> </td> </tr> </tbody> </table>		中学校ブロックの評価、取組等	評価資料の収集等	4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●春日野中ブロックCS推進委員会組織編成</li> <li>●春日野学校評価推進計画の策定</li> <li>※中学校ブロック評価項目の検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全国学力実態調査実施(小:国語,算数 中:国語,数学)</li> <li>・小学校東京書籍標準学力検査結果分析</li> </ul>	5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●第1回春日野中ブロックCS事務局会</li> <li>●春日野中ブロックの重点項目実態調査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇生活実態アンケート分析</li> <li>●学校・家庭・地域の三者実態調査(教職員、児童生徒調査、地域実態調査、家庭実態調査)</li> </ul>	6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●第2回春日野中ブロックCS事務局会</li> <li>●第1回春日野中ブロックCS推進委員会</li> <li>○第1回小中合同あいさつ運動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>3つの重点項目の取組確認</li> <li>学校・家庭・地域の実態報告(教職員、児童生徒調査、地域実態調査、家庭実態調査)</li> <li>○福岡県学力実態調査</li> </ul>
	中学校ブロックの評価、取組等	評価資料の収集等												
4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●春日野中ブロックCS推進委員会組織編成</li> <li>●春日野学校評価推進計画の策定</li> <li>※中学校ブロック評価項目の検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全国学力実態調査実施(小:国語,算数 中:国語,数学)</li> <li>・小学校東京書籍標準学力検査結果分析</li> </ul>												
5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●第1回春日野中ブロックCS事務局会</li> <li>●春日野中ブロックの重点項目実態調査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇生活実態アンケート分析</li> <li>●学校・家庭・地域の三者実態調査(教職員、児童生徒調査、地域実態調査、家庭実態調査)</li> </ul>												
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●第2回春日野中ブロックCS事務局会</li> <li>●第1回春日野中ブロックCS推進委員会</li> <li>○第1回小中合同あいさつ運動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>3つの重点項目の取組確認</li> <li>学校・家庭・地域の実態報告(教職員、児童生徒調査、地域実態調査、家庭実態調査)</li> <li>○福岡県学力実態調査</li> </ul>												

7月	●第3, 4回春日野中ブロックCS事務局会 ◇地域、家庭の取組・実施計画	
8月	●第5回春日野中ブロックCS事務局会 ← ●3校合同研修会	評価資料の集計・分析
9月	●第6回春日野中ブロックCS事務局会 ← ○第2回小中合同あいさつ運動 ●第2回春日野中ブロックCS推進委員会(前期 学校関係評価) ← ●春日野中ブロック前期学校評価の公表	第2回春日野中ブロックCS推進委員会に向けて の事前打合せ※3つの重点項目の取組確認 ●学校・家庭・地域の三者前期評価(全職員、児 童生徒による自己評価、地域評価、家庭の評価)
10月	●第7回春日野中ブロックCS事務局会	
11月	●第8回春日野中ブロックCS事務局会	
12月	○児童生徒交流活動、小中合同地域清掃活動 ●春日野中ブロックCS推進委員県外視察 ← ○小中サミットの実施 ○第3回小中合同あいさつ運動	○小6児童中2生徒交流活動と推進委員県外視 察研修会の事前打合せ
1月	◇家庭の取組・評価 ◇学校支援の自己評価の実施 ○小6児童中学校授業体験	●評価資料の集計・分析 ●中学校ブロック学校報告書の作成
2月	●第9回春日野中ブロックCS事務局会 ← ●春日野中ブロックCS合同研修会 ●第3回春日野中ブロックCS推進委員会(後期 学校関係評価) ●次年度へ向けてのまとめ	第3回春日野中ブロックCS推進委員会に向けて の事前打合せ※3つの重点項目の取組確認 ●学校・家庭・地域の三者前期評価(全職員、児 童生徒による自己評価、地域評価、家庭の評価)
3月	○春日野小6年春日原小6年交流活動 ●春日野中ブロック後期学校評価公表	

研究の成果

① 中学校区の課題をもとに3つ重点施策として「家庭学習」「あいさつ」「地域行事」に重点化し、取り組んだことで小中9カ年で目指す児童生徒の姿が明らかになり、それぞれの取組の充実につながった。中学校ブロック学校関係者評価においても、評価項目の重点化が評価のしやすさ、より具体的な意見の集約につながった。

② 中学校ブロック学校関係者評価において、評価指標を作成することで、評価精度を高めることができた。その結果として、より取組の実態に即した評価結果を得ることができ、改善策の明示も具体的なものとなった。

③ 「家庭学習リーフレット」を3校で作成し保護者に配付したことで、家庭学習の実施内容や方法が共通理解され、当初の目的にあった自分から進んで家庭学習に取り組む姿が見られるようになった。

④ 3校合同学校要覧の作成、配付により、中学校ブロックの取組について共通理解が図られた。また、中学校ブロックの取組を簡単に確認できるツールが出来たことにより、中学校ブロック学校関係者評価の際の評価資料となった。

本件  
問い合わせ先 春日市教育委員会 教務課教育総務担当  
TEL : 092-584-1128 FAX : 092-584-1128

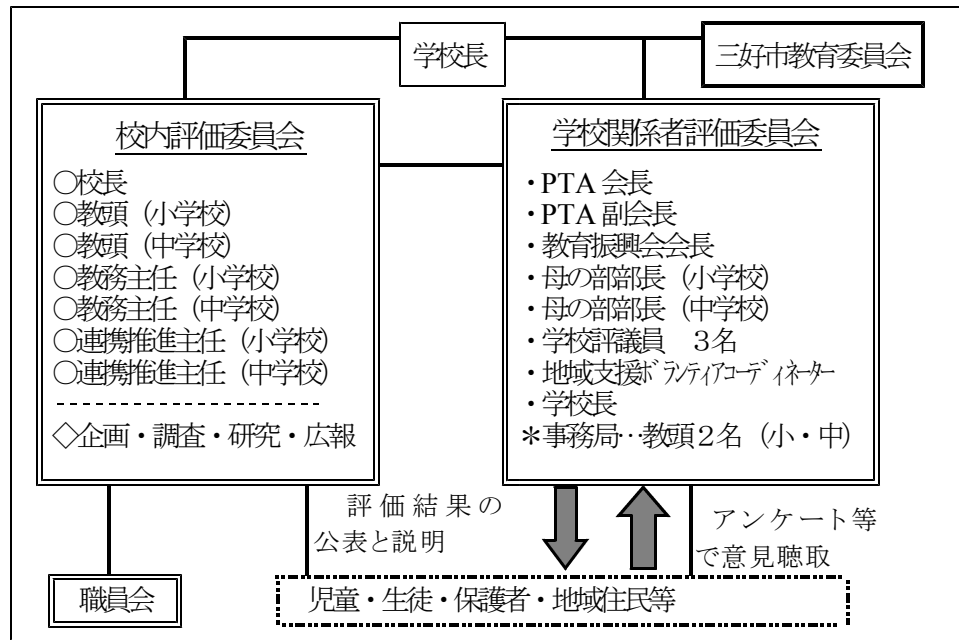


「学校のマネジメント力を強化するための実践研究」まとめ【概略版】

教育委員会名	三好市教育委員会
研究課題	<b>A 学校評価の充実・強化に関する実践研究</b> ～小・中が連携した「学校評価」でマネジメント力を強化した東祖谷小・中学校の実践～
研究のねらい	小・中学校が連携・協働した「学校評価」で学校改善を行い、学校のマネジメント力を強化する。
研究の概要	<p><b>(1)小・中連携プロジェクトの推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①キャリア教育の推進</li> <li>②教職員の交流</li> <li>③広報活動と地域との交流計画</li> <li>④組織のスリム化</li> </ul> <p>○4つのプロジェクトは、各プロジェクトごとに展開</p> <p>○プロジェクトリーダー連絡会を月に1回実施</p> <p>○教職員のスキルアップのための「小・中合同研修」</p> <p>○「東祖谷認定こども園」との連携 …連携教育(活動)のようす…</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="406 1019 861 1321">  <p>「園・小・中」連合運動会</p> </div> <div data-bbox="893 1019 1348 1321">  <p>小・中合同体育</p> </div> </div> <p>*****</p> <p><b>(2)小・中学校が連携・協働した学校関係者評価</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○小・中別々であったPTA組織を一つにし、強固な組織に</li> <li>○学校評議員も小・中で一本化し、「学校評価」を一元化</li> <li>○「校内評価委員会」「学校関係者評価委員会」を小・中合同で組織し、学校評価システムを充実・強化</li> <li>○小・中別々であったホームページを小・中で一元化</li> </ul> <div data-bbox="810 1534 1449 1982">  <p>東祖谷小・中学校のHP(トップページ)</p> </div>

「学校評価」組織図

研究の概要



「学校関係者評価委員会」を3回開催（7月・12月・2月）

**(3)「学校評価」を生かした学校・学級改善…鳴門教育大と連携した小・中合同研修**

- ①第1回目「東祖谷小・中学校の可能性」について
- ②第2回目「東祖谷小・中学校の子どもたちに育てたい力と組織的な取組」について
- ③第3回目「東祖谷小・中学校の9年間のランドデザイン」を考える

児童・生徒・教職員にアンケートを実施(5月・8月・1月)した。その結果を分析し、学校・学級改善に役立てた。



研究の成果

**(1) 小・中連携プロジェクトの推進**

○学校の実態把握を全教職員で行ったことで、課題を明確にして、計画・実行ができた。その結果、教職員の協働意識が高まった小・中連携教育が推進できた。

**(2) 小・中学校が連携・協働した「学校関係者評価」**

○PTA組織・学校評議員等を小中で一本化したことで、小・中学校が連携した学校関係者評価のシステムが確立された。

○学校関係者評価委員会等をとおして、東祖谷小・中学校の成果や課題を共有することができ、学校・家庭・地域の連携が深まった。

**(3)「学校評価」を生かした学校・学級改善**

○小・中合同研修で、目標を共有化することができた。そのことが、全教職員で課題解決を図ることにつながり、組織力が向上した。

本件

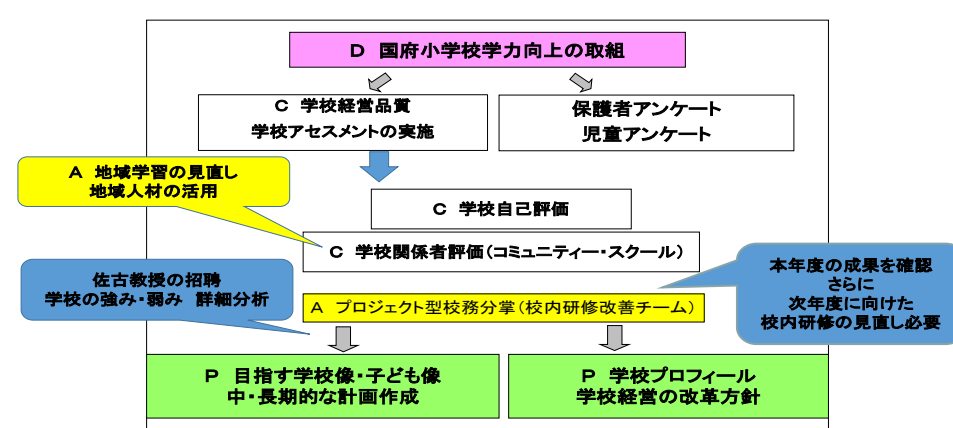
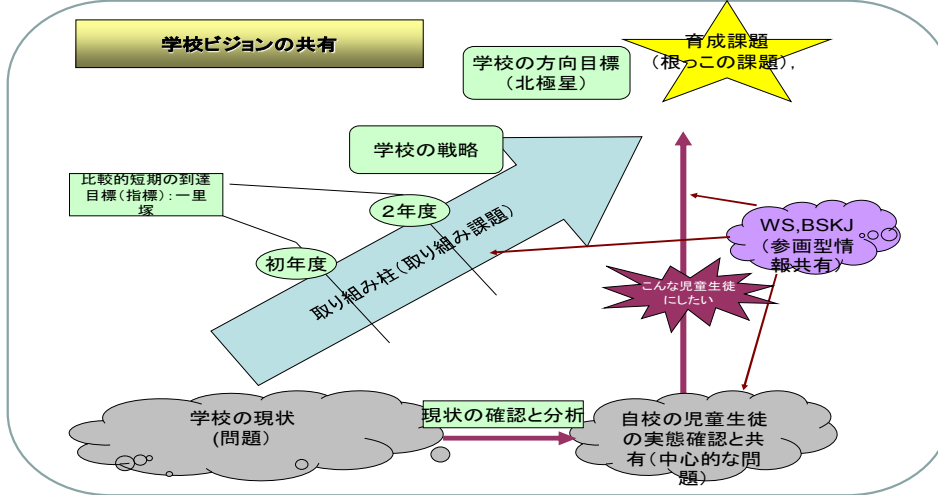
徳島県三好市教育委員会 学校教育課

問い合わせ先

TEL 0883-72-3555 FAX 0883-72-7430

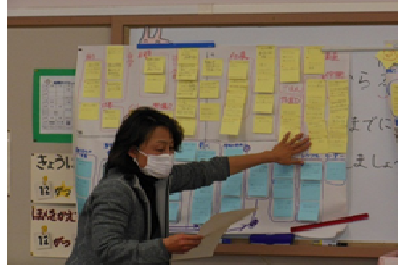
E-mail : gakkoukyouiku@city.tokushima-miyoshi.lg.jp

「学校のマネジメント力を強化するための実践研究」まとめ【概略版】

教育委員会名	鈴鹿市教育委員会
研究課題	A. 学校評価の充実・強化に関する実践研究
研究のねらい	<p>公立学校においては、授業以外の様々な業務の増加により、教員が勤務時間内にすべての業務を処理することが大変困難な状況にある。しかしながら、こうした業務は、欠くことのできない要求でもある。</p> <p>学校現場においては、要求の増大と多忙化の現実という相反する状況の中で、学校は、或いは教育委員会は、どこにその解決の糸口を見いだすのかが課題となっている。</p> <p>そこで、本市においては学力向上やいじめ問題など学校経営上課題を有する国府小学校を実践研究校として、多忙化の解消も視野に入れながら、学校評価を学校改革や改善と有機的につながりをもたせ、包括的学校マネジメントの実践研究を推進し、学校経営の改善を図りたい。</p>
研究の概要	<p><b>1 鈴鹿市教育委員会の取組</b></p> <p>(1) 学校マネジメントを強化するための研修会の実施（年4回）  (2) 三重県型学校経営品質の取組  (3) 市内中学校と鳴門教育大学との連携による校内研修の改善</p> <p><b>2 鈴鹿市立国府小学校の取組</b></p> <p style="text-align: center;"><b>国府小学校:PDCAサイクルによる教育活動の改善</b></p>  <p style="text-align: center;">(国府小学校 学校評価を生かした教育活動の改善イメージ)</p> <p>(1) プロジェクト型校務分掌による校内研修体制の再構築  鳴門教育大学 佐古秀一先生と連携した校内研修の改善</p>  <p style="text-align: center;">(佐古秀一先生が示されたイメージ図)</p>

佐古先生からは、学校の評価を生かした教育活動（研修体制）の改善の手法について、KJ法を用いながら、具体的にご指導いただいた。

- 子どもたちの実態が明らかになっているか
- どのような子どもたち、学校像を思い描いているか（中長期的な目標）
- そのために、どのことから取り掛かる必要があるか（教職員の共通意識）
- 教職員の感じている優先度の高いものを重点項目にする。



(2) 学校運営協議会を生かした教育活動の点検・評価



コミュニティ・スクールを生かし、学校の教育活動等について、学校運営協議会委員の皆様には、熟議を通してご意見をいただいている。（定期的に学校関係者評価を実施）

第1回の学校運営協議会では、平成25年度の学校教育目標、学校経営計画等を説明し承認を受けた。特色ある学校作りとして、歴史ある郷土国府を学ぶ地域学習を進めていく事を提案し協力を依頼した。

#### 鈴鹿市教育委員会の成果

- カリキュラム・マネジメントや組織マネジメント研修会を実施したことにより、学校の教育目標の実現に向け、年間指導計画等について見直し、効率よく効果的に学習活動が進むよう見直し改善していく意識が高まっている。また、学校の現状により校務分掌等の組織を見直し、より協働して学校教育目標に向かう必要性についての理解が進んだ。
- 学校経営品質の取組により、適時、学校教育活動にアセスメントを行い、学校の強みや弱みを明らかにしている。児童・生徒、保護者への学校教育活動に関するアンケート調査等も参考にしながら学校自己評価を実施、さらにコミュニティ・スクールを生かした学校関係者評価を実施し、学校の教育活動の改善（PDCAサイクルの確立）ができつつある。

#### 国府小学校での成果

- 学校運営協議会委員のコミュニティ・スクールに対する認識と学校改善の意識が高まった。
- 教職員が学校の強みや弱みに対応するため、学校組織のマネジメントを行う意義や重要性を認識することができた。特に、学力の向上に向けて、佐古先生と取り組んだ学校の研修体制見直しについての手法は参考になった。
- 教職員の中で目指す子ども像の共有化ができ、今後の取り組みへの共通理解が進んだ。目指す子ども像が明らかになったことにより、それに向けた取組について、より具体的に考えるようになった。
- 本校の特色ある学校づくりである「地域学習」の取り組みについて、地域との連携が進み、地域ボランティアや学習ボランティアの協力を得てより充実したものになった。
- 学校が支援を受けるだけでなく、地域へ出て地域の方と共に活動し地域づくりの取組に参加するようになった。

研究の成果

本件

問い合わせ先

鈴鹿市教育委員会事務局指導課 TEL:059-382-9028 FAX:059-382-7878

E-mail: shido@city.suzuka.lg.jp

「学校のマネジメント力を強化するための実践研究」まとめ【概略版】

教育委員会名	河合町立河合第二中学校(河合町教育委員会)
研究課題	A 学校評価の充実・強化に関する実践研究 ～実効性ある学校評価を通して質の高い学校教育を図る実践研究～
研究のねらい	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学校評価システムを通して、組織として機能する持続可能な学校評価を構築する。</li> <li>2. 学校運営や教育活動の改善を図るための学校評価の実効性を高める。</li> <li>3. 情報提供と広報活動の充実を図り、学校と保護者や地域住民との連携・協働を推進し、学校コミュニティを活性化させるとともに、地域に開かれた信頼される学校にする。</li> </ol>
研究の概要	<div data-bbox="359 638 1428 772" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>①体制づくり</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇持続性ある学校評価システムの構築</li> <li>◇PDCAサイクルに基づいた学校運営や教育活動する体制づくりの研究</li> </ul> </div> <p>○学校評価プロジェクトチーム会議(3回)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・過去3年間の学校評価を検証し、学校運営や教育活動の改善を図る。</li> <li>・職務内容と学校運営・教育活動との連携を検討し、校内組織の充実を図る。</li> </ul> <p>○学校関係者評価委員会の開催(3回)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校と保護者や地域住民との連携・協働できる取組の推進を図る。</li> <li>・情報発信や広報活動の充実を図る。</li> </ul> <p>○学校評価の充実に関する協力者会議(4回)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・持続性ある学校評価システムの構築</li> <li>・学校評価の実効性を高めるための検討</li> <li>・学年行事や体験活動、講演会等の具体的な達成目標を策定するとともに、達成度を確認するアンケートの信頼性を高めるような問い方を吟味する。</li> </ul> <div data-bbox="997 795 1428 1265" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>5. 事業の実施体制図</p> </div> <div data-bbox="359 1332 1428 1489" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>②教職員の意識改革</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇学校教育目標の達成に向け、PDCAサイクルに基づいた学校運営や教育活動の充実を図る実践研究</li> <li>◇人事評価(自己申告評価制度)との連携による実践</li> </ul> </div> <p>○学校教育目標及び学校経営の方針を示したグランドデザインへ情報発信</p> <p>○学校教育目標の達成に向け、PDCAサイクルに基づいた学校運営や教育活動を実践。学年行事や体験活動、講演会等の趣旨や目的を明確にした実施要項を作成する。</p> <p>○一つ一つの教育活動の成果と課題を明確にし、教育活動や校務の具体的な改善策を話し合うことにより、教育活動の改善を図る。</p> <div data-bbox="359 1736 1428 1870" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>③学校コミュニティの活性化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇家庭や地域社会との連携強化・協働推進のための具体的な取組研究</li> <li>◇情報の提供と共有化の工夫</li> </ul> </div> <p>○「地域とともにある学校づくり」検討委員会(4回)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・PDCAサイクルに基づき、地域と連携した活動の充実を図る。</li> </ul> <p>《具体的な活動》避難所体験、二中バザー、道徳人権学習講演会、休日オープンスクール、マネー教室、進路学習講演会、ボランティア活動、二中クリーンキャンペーン、高齢者との交流(1年生とグランドゴルフを体験)、ビューティフル会(保護者や地域の卒業生等)とボランティア活動</p>

- ・具体的な達成目標を策定するとともに、達成度を確認するアンケートの信頼性を高めるような問い方を吟味することで教職員の認識が深まった。
- 「いきいき懇談会」(学校コミュニティー協議会)(3回)
  - 《構成》自治会長、民生児童委員、保護司、学校評議員、PTA本部役員、ビューティフル会(約30人)
  - ・地域とともに実施した活動の課題分析、改善案の検討
- 情報の提供と共有化
  - 《具体的な取組》◇学校通信(「二中だより」全保護者・いきいき懇談会メンバー等へ配布)
  - 学年通信、生徒指導だより、保健だより、教科の通信、緊急時メール、ホームページ

研究の成果

**①体制づくり**

- ◎グランドデザインの学校教育目標に教職員のベクトルが定まり、学校運営の体制づくりが前進し、校内組織が機能した。
- ◎各教育活動の成果を、数的・心情的表現の面から捉えることで、的確に生徒や保護者の考えや思いがわかり、生徒と教員の「考えのズレ」を解消することができた。
- ◎自己評価の改善とともに学校関係者評価を位置付けることができた。今後、第三者評価を導入し、より適正な学校評価を進めることで、より有意義な教育活動に結び付けられると考える。
- ◎学校評価結果を踏まえて協議し、改善策を検討した。一定の様式でまとめることで、横断的に比較検討し、協議しやすくなった。
- ◎各分掌会議の年間のまとめでは、学校評価を基に話し合いを進めたので、教育活動と分掌業務の相互連携がとれ、組織として動くことの認識が高まった。

**②教職員の意識改革**

- ◎教職員が教育目標・学校経営方針を共有化できた。
- ◎自己申告評価制度における目標設定をグランドデザインに示す目標に重ねることにより、それぞれの有用性を実感し、目標を意識することが業務に対する責任感が増した。
- ◎学校評価の持続可能な実施が組織力を高めた。
- ◎学校評価の結果を通して生徒・保護者理解を深めた。
- ◎持続性のある学校評価が教職員の分析力を高めた。
- ◎成功体験が課題を克服した。

**③学校コミュニティーの活性化**

- ◎保護者や地域へ、教育活動を「二中だより」でタイムリーに情報発信することにより、学校への理解が高まった。同時に、学校評価も公開したことにより、地域の人に「開かれた学校」のイメージが定着した。中学校の敷居が低くなり、行事への参加が増え、さらに「参加」だけでなく「参画」「支援」したいに変わってきた。
- ◎「いきいき懇談会」(学校コミュニティー協議会)の実施により、徐々に学校の実践が理解され、さらに学校評価の公表を通して、学校への信頼を得、地域と協働する取組を通して地域の活性化に寄与している。

- ◎「いきいき懇談会」で、特に学校評価の低い取組に対してアドバイスや協力を得られる学校の応援団になっている。一方、学校も地域活動にボランティア活動として、協力することが増え、地域と協働する取組を通して地域の活性化に寄与している。
- ◎発展的善意の協力が増えた。また、感謝や賞賛の電話が増えた。



本件問い合わせ先 奈良県北葛城郡河合町立河合第二中学校  
 TEL0743-73-1005 FAX0745-73-1150 E-mail:kawai-2cyu@ed.town.kawai.nara.jp

「学校のマネジメント力を強化するための実践研究」まとめ【概略版】

教育委員会名	見附市教育委員会
研究課題	A. 学校評価の充実・強化に関する実践研究
研究のねらい	<p>「地域とともにある学校づくり」を目指す取組にあたって、保護者や地域住民の力を学校評価に生かすことが重要である。子どもが抱える課題を地域ぐるみで解決する仕組みを機能させるとともに、より質の高い学校教育の実現を図ることが期待できる。</p> <p>見附市では、学校、家庭、地域が一体となった総掛かりの人材育成を目指す「共創郷育」を推進している。学校評価については、評価力の向上や学校や地域の特性を踏まえた第三者評価のシステム及び教育委員会の学校評価の支援の在り方を中心に取り組んできた。昨年度はコミュニティ・スクールの導入を目指し「地域の声を学校へ、学校の声を地域に」届け「地域とともにある学校」の実現に向け、熟議と協働を生み出すための取組を進めた。これらを踏まえ、本年度は、学校評価の実効性を高め、学力向上に関する課題解決を図る取り組みを通し、学校のマネジメント力を強化する実践研究を行う。</p>
研究の概要	<p>○学校運営推進委員会（年3回実施）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市共通アンケート項目の修正と実施(年2回)</li> <li>・前期・後期アンケートの集約と評価、善後策の検討と校長会での報告</li> </ul> <p>○教師のマネジメント力を高める研修</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師の10カ条の改訂</li> <li>・ツイートシステムの運用による他校職員との課題の共有化と学び合い</li> <li>・授業改善ドック(師がくマンツーマン研修 年157回)</li> <li>・校長面談指導(年3回) 校長教頭研修会</li> <li>・学校評価アドバイスの会(年8回)</li> </ul> <p>○公表の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スクールアカウンタビリティ in みつけ 2013(820人参加)</li> <li>・学校評価だよりの配布、各校WEBページでの公表</li> </ul> <p>○成果、課題の整理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育委員会への学校評価報告書 (自己評価、外部評価、第三者評価)の作成・提出</li> <li>・学校評価アドバイスの会報告書の作成・提出</li> </ul>
研究の成果	<p>○学校運営協議会、学校支援地域本部と連携した評価システムづくりが進んだ。 [目標を保護者・地域と一緒に作るようになったか。→進んだ58%] [保護者・地域の評価活動への参加 →かなり進んだ17%、進んだ75%]</p> <p>○研修を通して教職員のセルフマネジメント力が高まってきた。 [「師がく」により教職員が自分の課題に着目し、授業力を向上させたか →かなり有効46%、有効54%]</p> <p>○児童生徒の意識に着目した学校評価が行われるようになってきた。 [学習主体としての子どもの意識を大切に評価を行ったか。 →かなり行った42%、少し行った58%]</p> <p>○公表(アカウンタビリティ in みつけ 参加者820人で過去最高)により説明責任が果たせた。 [各校の教育活動の特色が分かったか。→よく分かった80%、分かった20%]</p>



○改善に結びつく実効性のある評価力向上研修が実施できた。

[評価力向上にアドバイスの会は有効だったか

→大変有効 50%、どちらかといえば有効 50%]

#### 研究成果の概要

マネジメント力を強化し「好循環」を生み出す学校づくり

「好循環」が生み出す成果

- 開かれた学校の推進
- 学力・体力の伸長
- いじめ・不登校の減少
- 中学生の姿に結実する小中一貫指導の成果
- 四つ葉運動(挨拶、読書、花育、手伝い)の推進

#### 学校マネジメント力を強化する取組

- 1 学校主体の評価から保護者・地域域の参画型学校評価へ
  - ・学校運営協議会、学校支援地域本部と連携した評価システムづくり
  - ・学校がつくる評価計画から「保護者、地域と共につくる評価計画」へ
- 2 教職員のセルフマネジメントで専門性を向上させる
- 3 評価の視点を多様にするとともに子どもの意識に目を向ける
- 4 マネジメント力を高めるため教委の人的、財政的支援を連動させる
- 5 熟議と協働、連携を生む分かりやすい情報提供及び公表の工夫
- 6 改善に結びつく実効性のある評価力向上に資する研修

#### 「好循環」を生む 10 のポイント

- 1 ヘルプを伝える学校
- 2 助けられ上手な学校
- 3 認め・ほめ上手な学校
- 4 気持ちも伝わる学校情報
- 5 取り組んだ行事や活動を次につなぐ、生かす
- 6 さらに児童生徒の声を生かす学校
- 7 熟議を大事にする学校
- 8 スピード感、リズム感、適時を大切にしている学校
- 9 他の成功例に学ぶ学校
- 10 信頼と安心を基盤とした学校

本件  
問い合わせ先

見附市教育委員会学校教育課 TEL : 0258-62-1700 FAX : 0258-63-5003



「学校のマネジメント力を強化するための実践研究」まとめ【概略版】

教育委員会名	山口県教育委員会
研究課題	A. 学校評価の充実・強化に関する実践研究 D. 校務の情報化による教育の質の向上、学校運営の改善に資する実践研究
研究のねらい	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">A. 学校評価の充実・強化に関する実践研究</div> <p>① 小中学校が学校評価において共通の指標を設定し、その達成に向けた取組を進める体制づくり</p> <p>② それぞれの学校関係者評価委員会の評価結果を合同で再評価し、学校運営の改善に反映させることができる体制づくり</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">D. 校務の情報化による教育の質の向上、学校運営の改善に資する実践研究</div> <p>① 県教委、市町教委、小中高等学校等の代表者等で構成する「業務改善対策会議」を設置し、業務の見直しについて検討</p> <p>② ICTを活用した業務の効率化を進め、学校運営の改善に資するよう、各種校務支援ツールの充実を図る</p>
研究の概要	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">A. 学校評価の充実・強化に関する実践研究</div> <p>① 小中学校が学校評価において共通の指標を設定し、その達成に向けた取組を進める体制づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大島中学校及び同中学校区内3小学校の4校の管理職を中心に、児童生徒の課題やその解決に向けた取組について協議を重ねた。</li> <li>・ 協議結果をもとに、4校共通の学校評価における評価項目を設定し、次年度の学校評価を実施することとした。</li> <li>・ 4校で、大島中学校区地域協育ネットを構成し、4校共通の「協育目標」「めざす児童・生徒像」を定めた。そして、その達成に向け、「学力向上推進部会」「豊かな心推進部会」「体力向上推進部会」で取り組むこととした。</li> </ul> <p>② それぞれの学校関係者評価委員会の評価結果を合同で再評価し、学校運営の改善に反映させることができる体制づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大島中学校区地域協育ネット協議会に、各学校の学校関係者評価委員の代表者で構成する「評価委員会組織」を立ち上げ、合同で各学校の評価結果を協議することとした。</li> <li>・ この「評価委員会組織」において協議した内容を、各学校で再度検討し、各学校の学校運営の充実に資することとした。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">D. 校務の情報化による教育の質の向上、学校運営の改善に資する実践研究</div> <p>① 県教委、市町教委、小中高等学校等の代表者等で構成する「業務改善対策会議」を設置し、業務の見直しについて検討</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育庁内に「業務改善対策会議」を立ち上げ、教育庁内各課の業務の見直しを進める「業務改善検討部会」及び校務支援ツールの開発・充実を進める「ICT活用検討部会」の2部会を設置した。</li> </ul>



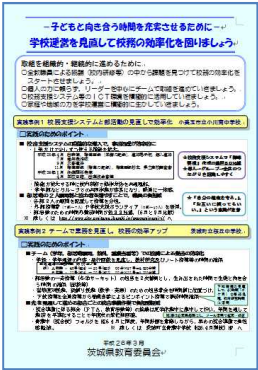
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 業務改善検討部会では、これまで取り組んできた各種会議や諸調査の精選・簡素化を継続することに加え、校長会や市町教育委員会を交えた協議をとおして、学校現場が抱える負担感や教育庁各課の業務に対する意見等を整理した。</li> <li>② ICTを活用した業務の効率化を進め、学校運営の改善に資するよう、各種校務支援ツールの充実を図る <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「業務改善対策会議」の部会である「ICT活用検討部会」の中心的な役割をやまぐち総合教育支援センターの教育支援部が担うこととした。</li> <li>・ 校務支援ツールの開発・充実にあたっては、学校現場で使いやすいツールとするために、学校現場の意見を参考にしながら取組を進めることとした。</li> </ul> </li> </ul>
<p>研究の成果</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>A. 学校評価の充実・強化に関する実践研究</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 大島中学校及び同中学校区内3小学校の4校において、児童生徒の課題を共有し、その解決に向けた取組を進める必要性を相互に認識することができた。</li> <li>○ 4校の学校評価における共通した視点を定め、各校の学校評価への位置付けや具体的な取組等について議論を深めることができた。</li> <li>○ 来年度に向けて、大島中学校区内4校の「協育目標」と「めざす児童・生徒像」を定め、各校長が参加する「学校経営者会議」の元に、各校の教頭や担当者で構成する「学校主任者会議」を置き、重点取組事項別に「学力向上推進部会」「豊かな心推進部会」「体力向上推進部会」の3部会で具体的な取組を推進する組織づくりができた。</li> <li>○ また、各学校の学校関係者評価委員会の代表者が、4校の共通取組事項を評価する仕組みを構築することができた。</li> <li>○ 協議を重ねることで、次年度の取組の方向性について、共通理解が図られた。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>D. 校務の情報化による教育の質の向上、学校運営の改善に資する実践研究</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学校関係者や市町教育委員会担当者から、教育庁各課の取組についての意見や要望を聞くことで、教育庁各課担当者が、学校現場の状況を理解し、業務見直しの必要性や方向性を確認することができた。</li> <li>○ 教育庁各課が取り組んでいる業務の見直しや校務支援ツールの充実を今後さらに進めることが、学校の負担を軽減し、学校運営の改善・充実につながるという認識のもと、業務の見直しや校務支援ツールの充実・開発を進めることができた。</li> <li>○ 学校の負担軽減を図るため、これまで教育庁各課で進めてきた各種会議や諸調査の精選・簡素化を一層充実させるため、教育庁各課が連携して取り組むこととし、その方策について検討を始めることができた。</li> <li>○ 市町教育委員会においても、それぞれの業務を見直し、学校の負担軽減を図る意識が高まってきた。また、学校においても、これまで学校評価の中に「業務改善」を位置付けて進めてきた取組を、一層充実させていく必要性を再認識できた。</li> <li>○ 平成26年8月には、小学校及び中学校の児童生徒指導要録作成を支援する校務支援ツールを、やまぐち総合教育支援センターのホームページに掲載する予定である。</li> </ul>

本件 問い合わせ先	山口県教育庁教職員課学校管理班 TEL : 083-933-4555      FAX : 083-933-4559 E-mail : a50200@pref.yamaguchi.lg.jp
--------------	---

「学校のマネジメント力を強化するための実践研究」まとめ【概略版】

教育委員会名	茨城県教育委員会
研究課題	B. 学校裁量権の拡大，組織的な学校運営の強化に関する実践研究
研究のねらい	<p>学校マネジメント力の向上に向けた研修プログラムの在り方等について明らかにするとともに，モデル校による学校の組織力を生かした業務改善の具体的な手法について実践研究を実施する。また，学校事務の共同実施について，財務管理等の事務職員の専門性をさらに学校運営に生かすなど，学校マネジメント力の総合的な向上に向けた研究を実施する。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>学校の業務改善に向けたマネジメント力向上に向けた研修</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・管理職研修</li> <li>・教務主任研修</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>モデル校による学校の組織力を生かした業務改善に係る実践研究</p> </div> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;"> <p>研修プログラムの在り方を究明</p> <p>具体的な手法を究明</p> <p>↓ ↓</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>学校マネジメント力の総合的な向上</p> </div> <p>↑</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>校務支援の在り方等を究明</p> </div> <p>↓</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>学校事務共同実施による事務機能の強化（再委託先による取組）</p> </div> </div>
研究の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 全市町村立小中学校を対象に業務改善に向けたマネジメント研修を実施             <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 校長研修                 <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校マネジメントにおける管理職の役割について</li> <li>・ミドルリーダーのマネジメント力強化について</li> </ul> </li> <li>○ 副校長・教頭研修                 <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校マネジメントにおける管理職の役割について</li> <li>・ミドルリーダーのマネジメント力強化について</li> <li>・教職員のメンタルヘルスの維持・向上について</li> </ul> </li> <li>○ 教務主任研修                 <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学教員による理論研修（講演等）</li> <li>・モデル校における教務主任の学校マネジメント実践事例紹介</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>■ モデル校（中学校10校）による学校の組織力を生かした業務改善に係る実践研究を実施             <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学教員がモデル校を訪問し，テーマ・取組内容等について指導・助言</li> <li>・モデル校間の情報交換及び講師による指導・助言のために連絡協議会実施</li> </ul> </li> <li>○ モデル校の取組例             <ul style="list-style-type: none"> <li>・全教職員参加による研修等をとおした課題把握及び改善策検討</li> <li>・校務支援システムにおける機能の段階的な導入</li> <li>・学校統合に係る業務を見据えた年間準備計画及び協働体制の整備</li> <li>・地域力を生かしたスクールサポーター体制の整備</li> <li>・ペーパーレス会議の効果的な運用</li> <li>・学校事務共同実施との連携による諸台帳・書類等のデータ化・システム化</li> <li>・教職員の意識変革に向けたエントリーカード・シラバスの活用</li> <li>・効率的な会議の運営と一体的に進めるミドルリーダーの育成</li> <li>・教職員用個人ボックスの設置等の執務室環境の整備</li> <li>・自己申告制リフレッシュデーの導入</li> <li>・全教職員による業務効率化個人シートの作成と改善策の共有</li> <li>・部活動の複数顧問制と外部指導者・学校支援ボランティアの有効な活用</li> <li>・部活動正副顧問の分担による定時退勤日の設定</li> <li>・部活動全体アップタイムの設定と分担による指導体制の整備</li> <li>・地域を一体的に進める学校規模に応じた部活動の在り方の検討 等</li> </ul> </li> </ul> <p>※全モデル校が，中学校において多忙化の一因と考えられる部活動運営の改善に係る取組を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 学校事務共同実施による事務機能の強化に係る取組（再委託先による取組）             <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学校事務共同実施の中に全体作業日を設定（原則月2回）</li> <li>○ 若手事務職員育成のための研修会を実施（月1回）</li> <li>○ 管理職・教職員に対して学校事務共同実施への理解を深めるために「共同実施だより」を発行（月1回）</li> <li>○ 校務支援システム運用支援の一環として名簿システムを作成し，学校事務</li> </ul> </li> </ul>

	<p>共同実施がオブザーバーとして各学校の情報主任を支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学校事務に関する知識を深めるために、各種研修会を開催（年2回程度）</li> <li>○ 校務支援の策として、学校徴収金の統一マニュアルを作成</li> <li>○ 学校事務職員へのアンケートを実施</li> <li>○ 学校事務共同実施先進地への視察及び研修の実施</li> </ul>
<p>研究の成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 業務改善に向けたマネジメント研修       <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 管理職研修           <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校マネジメントにおける管理職の役割を踏まえた学校運営への理解促進</li> <li>・ 自身を含めた教職員のメンタルヘルスに係る理解促進（副校長・教頭研修）</li> </ul> </li> <li>○ 教務主任研修           <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 参加者の99.6%が、本研修は学校のマネジメント力向上に有効な研修であると回答</li> <li>・ 講演（理論研修）と実践事例紹介を組み合わせることで、理論と実践のバランスの取れた研修となった。</li> <li>【講演の効果】               <ul style="list-style-type: none"> <li>* 学校マネジメントの必要性についての理解</li> <li>* 学校運営において、教務主任に期待される役割と機能についての理解</li> </ul> </li> <li>【実践事例紹介の効果】               <ul style="list-style-type: none"> <li>* 学校マネジメントにおいて、教務主任の立場から貢献できる点についての理解</li> <li>* 学校における日頃の取組を振り返る機会</li> </ul> </li> <li>・ 実践事例紹介については、学校の取組全般についての紹介ではなく、教務主任が取組に対して具体的にどのようにかかわったのかという視点で紹介したことにより、今後の実践に結びつけやすい研修となった。</li> </ul> </li> <li>■ モデル校による学校の組織力を生かした業務改善に係る実践研究           <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学校の実情に応じたなペーパーレス会議の運用例について               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 要項のみを紙に印刷・配布し、他の会議資料は共有フォルダに保存</li> <li>・ 要項及び他の会議資料すべてを共有フォルダに保存</li> <li>・ 共有フォルダ内のデータは印刷が必要な資料のみ教職員が各自印刷</li> </ul> </li> <li>○ 学年会の効率的な実施例について               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 時間割上に位置づけ</li> <li>・ 放課後に実施する場合、実施する曜日を学年ごとに変えて実施（部活動指導は他の学年でサポート）</li> </ul> </li> <li>○ 校務支援システムの導入効果について               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市町村内小中学校一斉導入により、小学校の個人データが中学校において活用できる点において効果大</li> <li>・ 機能の導入について、年度途中に徐々に拡大していく進め方は、年度初めにすべての機能を一度に導入する方法に比べ対応しやすく受け入れが容易</li> </ul> </li> <li>○ ミドルリーダーの育成について               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 会議運営の中で、意図的にミドルリーダーに役割を与え、適宜、管理職及び教務等が必要な助言を与える（OJT）ことは、ミドルリーダーの学校運営に対する参画意識を高め、リーダーとしての資質を向上させることに効果大</li> </ul> </li> <li>○ 定時退勤日の運用例について               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学年内を2グループに分け、交代で運用（隔週等）</li> <li>・ 自己申告制による運用</li> <li>・ 部活動の正副顧問の役割分担の中での運用</li> </ul> </li> <li>○ 部活動運営の改善について               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 複数顧問制における正顧問と副顧問の役割分担により、正顧問の執務時間確保</li> <li>・ 下校時刻（部活動終了時刻）を見直す必要性</li> <li>・ 外部指導者の活用による技術指導のサポート</li> <li>・ 学校規模に応じた部活動の在り方を検討する必要性（小・中学校の児童生徒及び保護者に意見を求めながら学校での協議を重ね方針を策定）</li> </ul> </li> <li>○ 各モデル校の取組による成果をリーフレットにまとめ、県内全市町村立小中学校に電子配信</li> </ul> </li> <li>■ 学校事務共同実施による事務機能の強化に係る取組（再委託先による取組）           <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 定期的な全体作業日の設定により、学校事務職員全体のレベルアップ</li> <li>○ 若手事務職員研修により、若手職員に加え講師役中堅職員のスキル向上</li> <li>○ 学校事務職員が専門性を生かし、校務支援システム導入のバックアップ</li> <li>○ 学校徴収金取扱マニュアルの策定により、学校間運用の統一化が図られ、学校裁量権の明確化、管理職の判断根拠の明確化等</li> </ul> </li> </ul> </li></ul>
<p>本件 問い合わせ先</p>	<p>茨城県教育庁義務教育課 TEL:029-301-5229 FAX:029-301-5239 E-mail:giky@pref.ibaraki.lg.jp</p>



<校務の効率化リーフレット>

「学校のマネジメント力を強化するための実践研究」まとめ【概略版】

教育委員会名	九重町教育委員会
研究課題	B学校裁量権の拡大、組織的な学校運営の強化に関する実践研究 ～ここのえ学園構想を通じた実践的な組織マネジメント力の向上と学校の自主・自律を目指して～
研究のねらい	<p>目標達成に向けて、組織的に取り組む学校組織を構築するためには、管理職をはじめとするミドルリーダー等の組織マネジメント力が重要とされる。しかし、その力量形成のためには、「学校としての組織の自立」が大きな鍵を握っている。よって、学校の自主的・自律的経営の在り方を実践的に確立する。</p> <p>「ここのえ学園構想」を推進する過程に、組織マネジメントの手法を取り入れながら、実践的な取組を行うことで、学校幹部職員の力量形成を行うと同時に、教職員には学校運営に参画する意識を高める。また、学校管理規則と学校予算の校長裁量権の拡大について、学校の自主・自律という立場から見直しを行うことで、特色ある学校づくりを進める。</p>
研究の概要	<p><b>実践研究の進め方</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「ここのえ学園構想」というビジョンを達成するために、①校長会や各学校でミッションづくり、②全員研修会・校内研修会で理念の共有、③推進委員会による構想計画づくりなどを行うことで、学校の組織力の向上を目指す。</li> <li>○学校マネジメント力向上委員会において、ここのえ学園構想のルールづくりという視点で、九重町学校管理規則と学校予算における校長裁量権の拡大を推進する。</li> <li>○ここのえ学園構想を進める過程で、各学校の特色づくりを進める。</li> </ul> <p><b>研究の構想図</b></p> <p>このえ学園構想とは 九重町の教育課題を解決するための、こども園・小・中学校が連携し、就学前(0歳)～15歳までを見通した子育て支援と学校教育を進めていくという構想</p> <p><b>ここのえ学園構想</b> 教育委員会が提示したビジョン (小中連携型の一貫教育)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>☆ミッションづくり             <ul style="list-style-type: none"> <li>○校長会のミッション</li> <li>○学校のミッション</li> </ul> </li> <li>☆重点事項(特色づくり) こども園・小学校・中学校</li> </ul> <p><b>学校マネジメント力向上委員会</b> ○学校管理運営規則の見直し ○学校予算の校長裁量権拡大</p> <p><b>学校マネジメント研修</b> ○学校評価 ○先進地視察</p> <p><b>校長会・学校幹部会</b> ○研修とミッションづくり 九重町教職員全員研修会 ○ここのえ学園構想理念共有</p> <p><b>このえ学園推進委員会</b> ○校長会のミッション ○学校のミッション</p> <p>九重町地域の教育力を考える会 → 評価 → 九重町教育委員会 → 支援 → ここのえ学園協議会 → 評価 → ここのえ学園協議会</p> <p>兵庫教育大学 → 助言 → 九重町教育委員会</p>

	<p><b>具体的な取組</b></p> <p><b>学校幹部研修会</b>  ○日渡教授による研修会  ・このえ学園構想の理念の共有  ・校長会としてのミッションづくりの必要性  ・学校組織のあり方  ・教育課程と学校の特色づくり  ・教育委員会の役割</p> <p>○ミッションづくり研修会  ・九重町の教育課題の洗い出し  ・15の春に目指す子ども像の共有化</p> <p><b>このえ学園推進委員会</b>  ○このえ学園構想計画の作成  ○作業部会の設置  ○作業の進捗状況確認  ○広報活動</p> <p><b>教育委員会の役割</b>  ○このえ学園構想を進める上で地域と保護者と学校の連携が進むようにサーバントリーダーとしての役割を果たす。  ○効果的な学校評価制度の導入を目指す。</p> <p><b>九重町教職員全員研修会</b>  ○このえ学園構想の理念を共有するために教育長から教職員に思いを伝える。</p> <p><b>このえ学園構想に関わる校内研修会</b>  ○学校のミッションづくりと理念の共有</p> <p><b>学校マネジメント力向上推進委員会</b>  ○学校管理規則研修会の実施  ○先進地視察研修  京都市教育委員会と京都市立御池中学校を訪問し、学校予算についての視察  ○全国コミュニティースクール研究大会への参加  ○学校予算と校長裁量権についての研修  ○九重町学校管理規則についての研修と見直し  ○学校評価についての研修</p>
<p>研究の成果</p>	<p><b>九重町地域の教育力を考える町民会議専門委員会による評価</b>  このえ学園構想についてと、教職員との協働については理解と支持が得られた。しかし、いっそう教職員と議論することの必要性和負担軽減、学校の地域との協働に対する意識改革、保護者・地域住民が学校教育へ参画する意識を高めること、九重町の課題解決としての位置づけなど多くの指摘を頂いた。</p> <p><b>教育委員会による自己評価</b>  このえ学園構想というビジョンにあわせて、学校・地域・教育委員会が協働しながら施策を行っていこうという体制を構築できつつある。このことは、九重町の教育課題に対して大きな解決策になり得るものである。具体的には次のような3点で、成果があった。</p> <p>○教育委員会と学校の協働体制の構築ができた。  ○教育問題に対するビジョンと校長会・各学校のミッションの明確化ができた。  ○管理職や推進委員の段階において、学校の特色づくりと自主・自律などについて意識改革が進んだ。</p>
<p>本件 問い合わせ先</p>	<p>大分県九重町教育委員会・教育振興課  TEL: 0973-76-3828 FAX: 0973-76-3826  E-mail: obata-eiji2oen.ed.jp</p>